



和 ～心をつなぐ～

令和6年1月31日

第8号



助け合い支え合う

日本は昔から「地震列島」と称されるように、災害がとても多い国です。大きな災害により尊い命が失われ、被災地が混乱を極める中、助け合う人々の温かさがメディアに多く取り上げられました。これらの取組から、災害が起こった時、私たちにできることが何かを考えました。



〔※ 裏面：放送内容〕

☆ 1年生 ☆

- この活動は、自分たちの苦難があったからこそできる行動なのかなと思いました。自分の会社の事だけではなく、被災した人々に対して力を注いでこのような活動ができる会社が本当に強い会社なのかなと思いました。自分も小さな親切から見つけて行動していきたいです。
- 支えてくれる人たちがいるように、僕も人のために支えられる人になりたいので、小さなことでも取り組んでいきたいと感じました。
- 私も被災者の方の気持ちが少しでも軽くなるのなら、募金活動などのボランティアに参加したいと思います。

☆ 2年生 ☆

- 災害は勝手に起こることなので仕方ないけれど、その災害にあった人たちに何かできることがないかを考えて行動することは、被災者を助けることにつながり、不安ではなくなるのが分かりました。自分にも何かできることはないか考えることが大切だと分かりました。
- 過去の経験は、いつか役に立つものなんだなと思いました。
- 自分が被災した場合に周りの人に気を配るのは難しいと思うので、事前の備えを大切にしたいです。

☆ 3年生 ☆

- 「誰かがやってくれる」と思うのではなく、自分にできることをするのが大事だなと思いました。
- 「食品企業として被災地への緊急食糧の供給は責務」という言葉から、自分たちのことより困っている人の方が大事ということが分かりました。僕も自分から動いて、困っている人を助けるということをしたいです。
- 私のお父さんも友人と一緒に能登半島に支援物資を送っていました。自分の家はそんなに裕福ではないのに人のために尽くしていてすごいと思いました。
- 恐ろしい災害の中で、一生懸命運んでくれている人がいることを忘れてはいけないと思った。

お子様と意見の交流をして、ぜひ感想などを気軽にお寄せください。

みなさんは近隣の道路を走るこのトラックを見たことはありませんか。これは日本を代表するある製パン会社のトラックです。この製パン会社は2014年の大雪や、2016年の熊本地震の際に、配送トラックのドライバーが被災地へパンを無料で配布するという取組を行いました。2011年の東日本大震災の際にも被災地への食糧支援を行い、地震発生から1ヵ月間で被災地に提供した食料は、パンが864万個、おにぎりが244万個、菓子類が46万個にのぼりました。今月発生した能登半島地震でも食料支援を行っています。この被災地へパンを届けるという取り組みは、会社が決めたことではありません。



災害に遭い、配達中に被災したトラックは、通行止めなどによってお店に商品を届けられなくなりました。商品を工場に持ち帰っても廃棄処分の道しか残されていない中で、ドライバーは本社の承認を得たうえで、サービスエリアで足留め状態となり食料に困っているドライバーたちに配布したのです。この製パン会社は熊本地震の際、自らの工場も被災し、二度にわたる大きな地震の揺れで工場の天井や壁の一部が剥がれ落ちましたが、幸い、従業員や生産設備には被害はありませんでした。そのため地震発生後3日で工場の稼働を再開しました。地震直後、県内各地の大手スーパーやコンビニのパンコーナーの棚が空になっていましたが、この製パン会社のマークがついた製品は、普段通り棚に並んでいました。

従業員や生産設備に被害がなかったとはいえ、3日で生産を再開させるのは簡単なことではありません。実際に熊本地震では自動車や電気機器など大手製造業の現地部品工場が被災し、生産に支障が生じるという「想定外」の事態が起っていました。熊本市やその周辺に工場を構える製パン会社も、操業再開が遅れていました。そのような状況の中で、なぜたった3日で工場の稼働を再開することができたのでしょうか。その答えは過去にありました。今から40年以上も前の1973年、当時のパン工場としては国内最大で最新だった東京の武蔵野工場が、火事で全て焼け落ちました。ケガ人は出なかったものの、大手スーパーなどから注文を受けた大量の製品を生産できなくなるという最大の危機に直面しました。このとき、武蔵野工場の注文分を他の関東周辺の各工場を昼夜フル回転させることでカバーし、火災から3日目には通常通りの注文と供給ができるようにしたのです。この経験により「どんな試練や困難に遭遇しようとも、注文のあった製品をお客様に届けることに全力を挙げる」という考えが全社に根付きました。この危機を乗り切ったことで、「食品企業として被災地への緊急食糧の供給は責務」と主張するようになりました。

災害を防ぐことはできません。地震や洪水などの災害は、多くの人の命や日常を奪い、人々を絶望と不安に陥れます。電気や水、食べ物も十分ない中で、あの食べ慣れた味、懐かしい味を届けるため、一心に働いてくれている人たちがいます。大きな力ではなくても、「支えてくれる人たちがいる」、その温かさに被災者は救われます。私たちも何かできることから始めてみませんか。



〔復興を目指すボランティア活動〕

★ 保護者の方からの感想 ★ 1月「あなたも誰かのサンタクロースに」

- ・ 相手を思いやる気持ちを持つと、相手も自分も笑顔になりますね。みんなが笑顔のサンタさんになれば、たくさんの幸福のプレゼントであられそうで素敵だなと思いました。

(紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。)